



楽器博物館 CD「イギリス・ソナタ」 芸術祭 “大賞” 受賞！ 平成 24 年度文化庁芸術祭レコード部門



〈収録曲〉

J.L. デュセック (1760~1812) ソナタ 変ロ長調 作品 23 (1793)
J. ハイドン (1732~1809) イギリス・ソナタ ハ長調 Hob.XVI:50 (1794)
J. フィールド (1782~1837) ソナタ 変ホ長調 作品 1-1 (1801)
M. クレメンティ (1752~1832) ソナタ 短調 作品 40-2 (1802)
Lv. ベートーヴェン (1770~1827) ソナタ ハ長調 作品 53
「ヴァルトシュタイン」 (1803/04)

〈使用楽器〉 楽器博物館所蔵フォルテピアノ

ブロードウッド&サン ロンドン 1802 年頃製作 68 鍵

〈演奏〉

小倉貴久子：日本を代表するピアノ奏者、フォルテピアノ奏者。東京藝術大学、同大学院ピアノ科修了。アムステルダム音楽院特別栄誉賞付首席卒業。1988 年第 3 回日本モーツァルト音楽コンクールピアノ部門第 1 位。1993 年プーリャ国際古楽コンクールアンサンブル部門第 1 位。1995 年同コンクールフォルテピアノ部門 9 年ぶり史上 3 人目の第 1 位と聴衆賞。現在はフリーで活躍すると同時に、東京藝術大学大学院音楽科にてフォルテピアノの非常勤講師を勤める。

〈受賞理由〉 (文化庁発表)

浜松市楽器博物館は数年前より精力的に、自らの所蔵楽器を用いたユニークな録音を出してきたが、この CD は 1802 年のイギリス式ピアノを用い、当時斬新な響きによりセンセーションを巻き起こしたこの楽器を想定して作曲されたと思われるデュセック、フィールド、クレメンティ、ベートーヴェンらの作品を集めたものである。演奏も秀逸で、ヴァルトシュタイン・ソナタなどは、まさに産業革命の時代の音楽であったことを如実に実感させる録音である。

この度、楽器博物館コレクションシリーズ CD No.38 「イギリス・ソナタ～ブロードウッド・ピアノ 新世紀の響き～」が、平成 24 年文化庁芸術祭レコード部門で最高賞である大賞の栄誉に輝きました。

文化庁芸術祭は、昭和 21 年以来毎年、文化庁が主催となって秋に開催される芸術の祭典で、主催公演、協賛公演、参加公演、参加作品から成り、審査によって参加を認められた参加公演は演劇、音楽、舞踊、大衆芸能の 4 部門、参加作品はテレビ・ドラマ、テレビ・ドキュメンタリー、ラジオ、レコードの 4 部門に分かれています。参加公演と作品は 8 部門ごとに優れた公演や作品に対して文部科学大臣賞が授与されます。文部科学大臣賞は、大賞、優秀賞、新人賞の 3 つに分かれ、大賞は部門ごとに 1 つ、優秀賞と新人賞は複数授与されます。毎年優れた公演や作品、また個人に対して贈られます。

今回受賞した CD は、博物館所蔵の 1802 年頃にロンドンのブロードウッド&サン社が製作したフォルテピアノを、東京藝術大学大学院音楽科講師の小倉貴久子さんが演奏したものです。ピアノは 1700 年頃に誕生して以来

現代まで続く楽器ですが、およそ 19 世紀前半までのピアノを現代のピアノ（モダンピアノ）と区別するためにフォルテピアノと呼びます。現代の大きなピアノとは全く性質の異なるもので、当然音量や音色、響き方も違います。モーツァルトやハイドン、ベートーヴェン、シューベルトなど、18 ～ 19 世紀の大作曲家や名演奏家が活躍し、実際に演奏していたピアノはこのフォルテピアノです。フォルテピアノで演奏する当時の音楽は、当時の響きと作品の新たな魅力を再現してくれます。

今回の受賞は、博物館の所蔵品を活用し、ピアノの歴史に基づく、博物館としての優れた研究、演奏の芸術性、CD という形での社会への情報発信が、国から総合的に高く評価されたものです。日本の博物館界にとってもたいへん名誉なことでありましょう。

CD の一般市販価格は 3045 円（税込）。楽器博物館ミュージアムショップでは特別価格で発売中です。200 年前の名曲の新たな響きと魅力を、ご家庭でもぜひ味わってみてください。

大賞受賞によせて～フォルテピアノ、その古くて新しい世界～

この度、楽器博物館のオリジナル CD が芸術祭のレコード部門の文部科学大臣賞大賞をいただきましたことを、本当に嬉しく名誉なことと思っています。博物館の歴史研究プロジェクトの一環としての、古い時代の楽器による演奏の芸術性、地方のひとつの博物館のコツコツと積み重ねてきた自主企画作品の価値が、国のレベルで認められたことは、当館、演奏者、解説執筆者、調律師、録音技師のみならず、公益財団法人浜松市文化振興財団と浜松市にとっても、また我が国の博物館や美術館の世界にとっても、大変名誉なことでもあります。お力添えをいただきました多くの方々に心からの感謝を申し上げる次第です。

この世にたくさんある楽器の中で、ピアノほど誰でも知っていて、演奏もたくさんされて、聴く人も多い楽器は他にないでしょう。ピアノはクラシックの曲はもちろんのこと、ジャズ、ポップス、歌謡曲、演歌、唱歌、童謡、現代音楽と、どんなジャンルの音楽でもこなせますし、主役ではなくても、脇役として歌やほかの楽器の伴奏をしたりと、何でもこなすスーパー楽器です。ですから、楽器の王様とか女王さまとかとよばれたりもします。ピアノが弾けるといいなあと、誰もが思うほど憧れの楽器でもあります。

でもこのピアノは、大昔からある楽器かと言えば、実はそうではないのです。意外に思われるかもしれませんが、ピアノは、楽器の中では若い楽器で、生まれて 300 年ちょっとなのです。ヴァイオリンは少なくとも 4～500 年の歴史がありますし、トランペットは何千年もの歴史です。日本の楽器の琵琶などはルーツをたどればこれも何千年もの歴史をもつ楽器。ですから、ピアノは実は楽器の中では新参者、若僧なのです。

ピアノが生まれたのは 1700 年頃のイタリアのフィレンツェ（フローレンス）という都市。そう、ルネサンス時代の花の都、レオナルド・ダ・ヴィンチや

ミケランジェロが活躍した、あの芸術の都です。名家メディチ家の楽器コレクション管理者で、チェンバロなどの楽器製作者であったバルトロメオ・クリストフォリという人が、当時の花形鍵盤楽器であるチェンバロのアクションを改造して発明したというのが定説です。

この新楽器ピアノ（当時の名前はクラヴィチェンバロ・コル・ピアノ・エ・フォルテ＝ピアノとフォルテが出るチェンバロ）の製作は、その後イタリアではあまり行われず、ドイツやイギリスで活発となり、技術開発が進み、素晴らしい楽器が生まれ、多くの大作曲家や名演奏家によって使われるようになります。18 世紀後半から 19 世紀前半にかけてのロンドンやウィーンは、ピアノ製作の中心地でした。

さて、19 世紀前半までのピアノとそれ以降、特に 20 世紀のピアノは、もちろん楽器名は同じピアノなのですが、構造や音色に大きな違いがあります。ある人は、オーボエとクラリネットほど違うのだと言います。確かにそれくらい違う楽器だといっても大げさではありません。ですから、音楽史や音楽学の世界では、ピアノという名前ですらひとまとめにしないで区別するほうがよいということで、前者をフォルテピアノとか古典ピアノ、歴史的ピアノ、ヒストリカルピアノ、後者をモダンピアノ、現代ピアノとよんでいます。

フォルテピアノとモダンピアノの違いを、構造面から見ると、以下のようになります。

フォルテピアノは胴体がいぶりで木製の箱。弦は細く張力は弱い。弦は平行に張られ、同内部の金属での補強は無いが部分的。キー数は 60 から 80 ほど。キーを押した時に沈む深さは 5 ミリから 1 センチ。弦を叩くハンマーは小さく、木の部品に革を巻いたものが普通。大人 3 人ほどで持ち上げられる重量、等々。

モダンピアノは、大きくて重く、太くて強い鋼鉄のピアノ線で 20 トン程の張力で弦を張っている。弦は交差して張られ、強固な金属性フレームでその



展示室に並ぶ 19 世紀のフォルテピアノ

大きな賞をいただき感無量です



小倉貴久子 おぐらきくこ

東京藝術大学を経て同大学大学院ピアノ科修了。アムステルダム音楽院を特別栄誉賞 "Cum Laude" を得て首席卒業。1988 年第 3 回日本モーツァルト音楽コンクール、ピアノ部門第 1 位。1993 年ブルージュ国際古楽コンクール、アンサンブル部門第 1 位。1995 年同コンクール、フォルテピアノ部門で 9 年ぶり史上 3 人目の第 1 位と聴衆賞を受賞し話題を呼んだ。帰国後は各回毎にテーマを定めた室内楽演奏会『音楽の玉手箱』や『ベートーヴェンをめぐる女性たち』、『モーツァルトの生きた時代』、『小倉貴久子のモーツァルトのクラヴィーアのある部屋』などのユニークなコンサートシリーズを展開する一方、ソロ、室内楽、協奏曲などバロックから近現代まで幅広いレパートリーで活躍。また各ホール主催演奏会や音楽祭、ラジオ、TV の出演や録音も多い。これまでに CD を 30 点以上リリース。浜松市楽器博物館コレクションシリーズ 15 の『月光 / 春』は朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、音楽現代推薦盤に選ばれ、他コレクションシリーズも、レコード芸術誌特選盤になるなど注目を集めている。『月光～幻想曲風ソナタ / クラヴィーア作品集』、『コジェルフ クラヴィーア作品集』、『ソナチネ・アルバム』、『麗しきメンデルスゾーン～歌の翼に～』、『ジュスティーニ / 12 のソナタ集』、『夢～トロイメライ～』、『月の光～エーデルピアノとフランスのうた～』及び『イギリス・ソナタ』は「レコード芸術」誌の特選盤となった。DVD『楽器の世界コレクション②～ブレイエルピアノ室内楽で聴くショパンが愛した音の世界』（デジタルセンセーション株式会社）。著書にカラー図解『ピアノの歴史 (CD 付き)』（河出書房新社）。校訂楽譜に『ジュスティーニ：12 のソナタ集 第 1、2 巻』（カワイ出版）。東京藝術大学大学院古楽科にてフォルテピアノの非常勤講師を勤めている。http://www.h2.dion.ne.jp/~kikukohp/

年末も押し迫った冬晴れの午後、「小倉さん !! 《イギリス・ソナタ》の CD が、文化庁芸術祭レコード部門で“大賞”です !!」と、嶋和彦館長から電話をいただきました。あまりにも大きな驚きと喜びで心臓は早鐘を打ち、あたかも体の中の血液が 2 倍の速度で全身を駆け巡るかのようでした。

浜松市楽器博物館コレクションシリーズ No.4 《フォルテピアノ》の録音は 2004 年。この CD が私にとっての当シリーズの第一弾で、今回受賞した《イギリス・ソナタ》は 2011 年の録音。この 7 年の間に、とてもたくさんのアルバムに関わらせていただきました。ひとつひとつの CD にはさまざまな思い出があります。嶋館長と調律の中山真さん、コジマ録音のみなさまと共に、毎回試行錯誤しながら「最高なるものをつくりあげたい！」という共通の理念で積み重ねてきました。そのような年月をかけて築いてきたコレクションシリーズでしたので、ここでこのような大きな賞をいただき、感無量です。

これまで応援、支援していただきましたみなさまに本当に感謝しています。

この受賞がきっかけとなって、現代とは異なる価値観のもとに存在した芸術文化と共存していた、魅力溢れるフォルテピアノの世界を、もっともっと日本中の音楽ファンのみなさまに知っていただくことができれば、と願っています。

小倉貴久子

張力を支える。胴体は箱になっていない。キー数は 88 が標準。ハンマーは大きくフェルト製。キーの沈みは 1 センチ以上でタッチは重く、大きな指先の力が必要。等々。

このように構造が違うのですから、鳴り響く音も全く違って当然です。フォルテピアノの物理的な音量は小さく、残響はすぐに消えてしまいます。ベートーヴェンやシューベルトが実際に演奏し作曲に使っていたピアノは、現代の黒くて大きなピアノではなく、このような小さなフォルテピアノだったのです。このフォルテピアノの音が最も美しく響くように、彼らは音楽を作り演奏をしました。

さて、弦楽器や管楽器の世界では、音楽作品が作られた当時の楽器を使って演奏することが 1960 年代から活発に行われました。そのような楽器をヒストリカル楽器、オリジナル楽器、歴史的楽器、ピリオド楽器などと呼びます。今の楽器と違うのですから、当然演奏方法やスタイルが異なります。それを古楽奏法というのですが、現代ではその古楽奏法がモダン楽器のオーケストラに採用されるまでになっています。音楽界の変化はすごいものです。しかしピアノの世界は、様々な理由が絡み合って、作品の時代の楽器、つまりフォルテピアノで演奏するということが自体や演奏された音楽が、なかなか世の中に

認められない時代が続きました。ある学者は「ピアノの世界は他の楽器から 50 年遅れている」と言います。しかし、この 10 年ほどでフォルテピアノの演奏の機会は増え、日本でも NHK を始めとするテレビのクラシック番組にも取り上げられるようになりました。多くのフォルテピアノ研究者、演奏者や浜松市楽器博物館の活動が、ようやく陽の目を見つづつあるのです。その結果、過去に使われた古いタイプのピアノで演奏する音楽が、現代人にとって、如何に新鮮な響きであることが認められてきたのです。古いけれども新しい—それはちょうど考古学の発掘によって、古代人の文化が私たちの既成概念を覆すほどの、如何に高度なものであったかを発見する驚きと同じでしょう。

ピアノとはかくあるべきものだという固定概念を捨てて、まっさらな感性でフォルテピアノの演奏に耳を傾けてみましょう。そうすれば、皆さんはきっと、ピアノとその作品の新しい魅力を発見されることでしょう。ベートーヴェンや当時の人々が楽しんでいた響きの世界、音楽の世界です。ただ、その後のピアノという楽器の巨大化、音量や響きの巨大化に伴って忘れられていただけの世界です。私たちにとっては、古いけれども新しい、未知の素晴らしい世界の発見なのです。

館長 嶋和彦

楽器博物館 DVD 第 4 弾 「長唄三味線～粋を極めた江戸の音～」



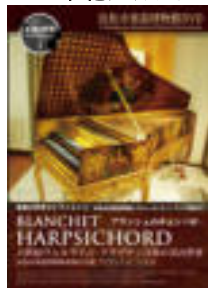
楽器博物館 DVD 世界の楽器シリーズ第4作が出ました。「長唄三味線～粋を極めた江戸の音～」(文部科学省選定作品)です。三味線と一口に言っても、様々な種類があるのですが、今回は歌舞伎の伴奏音楽として生まれた長唄に使われる長唄三味線を取り上げています。映像は2010年2月6日に開催した楽器博物館レクチャーコンサートの抜粋に、楽器の解説や演奏者のインタビューを加えて新たに編集したものです。演奏は「伝の会」として活発な活動を続けていらっしゃる、長唄界の中堅三味線方、杵屋邦寿さんと松永鉄九郎さんのお二人。演奏の素晴らしさは言うまでもありませんが、お二人の息の合ったお話は、解説の域を超えて見事な江戸の話芸。笑いもたくさんあって、邦楽の世界は難しくてどうも・・・と普段思っていたらっしゃる方や、まだ邦楽の世界を知らない方にとっても、絶好の入門DVDに仕上がっています。

収録曲は、有名な歌舞伎十八番のうち屈指の人気を誇る「勧進帳」から「滝流しの合方」、これも人気の歌舞伎「京鹿子娘道成寺」から「まり唄」、舞台の下手陰の黒御簾で演奏する歌舞伎の裏方の音楽から「浅草寺裏の場」など、これぞ日本の伝統という名曲ぞろい。奥深い邦楽の世界、三味線の粋な世界を楽しんでいただければと思います。

日本語版、英語版の2つを収録(日本語版58分、英語版42分)。市販価格2520円(税込)。博物館ミュージアムショップでは特別価格で発売中。既刊3巻も好評発売中。

No1 ブランシェのチェンバロ

～18世紀ヴェルサイユ・クラヴァン音楽の美の世界～



博物館所蔵の世界に誇る名器、フランス、ルイ王朝御用達のチェンバロ製作者フランソワ・エティエンヌ・ブランシェ2世作による1765年製のチェンバロ(フランス語でクラヴァン)を世界的奏者中野慎一郎が演奏。ヴェルサイユ宮殿最盛期の雅な音楽を楽しんでいただけます。三美神(J. デュプリ)、百合の花ひらく(F. クーブラン)、スキタイ人の行進(J.N.P. ロワイエ)ほかを収録。35分 3150円

No2 プレイエルのピアノ

～室内楽で聴くショパンが愛した音の世界～



ピアノの詩人ショパンが生涯愛して演奏したピアノは、フランス、パリのメーカー、プレイエルのピアノ。現代のピアノとは異なる音色と響きは、ショパンの作品の真価を最も雄弁に表現してくれます。名手小倉貴久さんのピアノで有名な「ノクターン」のほか、当時流行の弦楽器との五重奏、というスタイルでの「ピアノ協奏曲第1番」は、オケ版よりも美しいかも。55分。3150円

No3 津軽三味線

～音に込める激情繊細の世界～



日本の民俗楽器・音楽として最も有名で人気のあるもののひとつが津軽三味線。マスコミなどを通じて全国的に活動する奏者もいるが、地元津軽地方で活躍する演奏家の音楽は、素晴らしい技術と音楽性に溢れている。弘前の多田あつしさんとその仲間、弘前大学津軽三味線サークルの演奏で、「津軽じょんから節(新旧)」「津軽あいや節」、津軽三味線の皮張替えの様子や津軽の四季を収録。33分 2520円

これからの催し物

ホームページでは最新のイベント情報を紹介しています。ぜひご覧ください。

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日数回
チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
- レクチャーコンサート
「勇壮豪快優美艶麗～薩摩琵琶～」
1/29(火) 19:00 天空ホール 出演：岩佐鶴丈
- イブニングサロン いずれも天空ホール
「世界無形文化遺産 パリ島の影絵人形芝居ワヤン・クリ
アルジュナ王子の瞑想～マノバタ物語より～」
2/3(日) 18:30 出演：梅田英春、サンディア・ムルティ
「冬の夜のブラームス～弦楽四重奏曲第2番～」
2/22(金) 19:00 出演：愛知県立芸術大学学生&教員
- ミュージアムサロン 14:00、15:30 天空ホール
1/27(日)「コーラス」 出演：アンサンブルムジーク女性合唱団

博物館日誌

- 11/14(水) イブニングサロン
「古楽の愉しみ～チェンバロ、バロックフルート、
バロックヴァイオリン、ヴィオラ・ダ・ガンバによる～」
19:00 天空ホール
出演：桐朋学園大学音楽学部古楽器専攻学生、教員
入場者：32人
- 11/18(日) ミュージアムサロン「チェロと電子ピアノ」
11:30、12:30 出演：立川剛子、萩田なずな 入場者：78人

- 11/18(日) レクチャーコンサート「第8回浜松国際ピアノ
コンクール開催記念～魅惑のピアノ五重奏～」
19:00(プレトーク18:30) 音楽工房ホール
出演：デンハークピアノ五重奏団 入場者：152人
- 11/24(土) レクチャーコンサート「オルガン・ヒストリー」
18:30 天空ホール
出演：ヘクター・オリベラ 入場者：78人
- 11/25(日) ミュージアムサロン「サククス&ピアノ」
14:00、15:30 天空ホール
出演：坂本佐智子、山田優子 入場者：74人
- 11/30(金) イブニングサロン
「グラン・ママン～100年前のアコーディオン～」
19:00 天空ホール
出演：かとうかなこ、向島ゆり子 入場者：53人
- 12/1(土) イブニングサロン
「国際古楽コンクール《山梨》2012入賞者コンサート」
18:30 天空ホール 出演：倉本晋児、野澤知子
入場者：44人
- 12/2(日) ミュージアムサロン「ブルーグラス」
14:00、15:30 天空ホール
出演：カントリー・フロンティア 入場者：75人
- 12/15(土) レクチャーコンサート「オカリナ・クリスマス」
18:30 天空ホール
出演：スイートポテトオカリナ合奏団 入場者：104人

浜松市楽器博物館だより

平成25年1月1日発行 No.75 編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp URL <http://www.gakkihaku.jp/>